世の人々の楽しみと幸福の為に

石橋正二郎
名誉市民顕彰会

FOR THE WELFARE AND
HAPPINESS OF ALL MANKIND

https://www.shojiro-kenshokai.jp

石橋正二郎名誉市民顕彰会会報 2022 [No.13]
令和5年3月発行

世の人々の楽しみと幸福の為に

石橋正二郎名誉市民顕彰会

令和四年度事業報告

2022

石橋正二郎を偲び

墓前祭

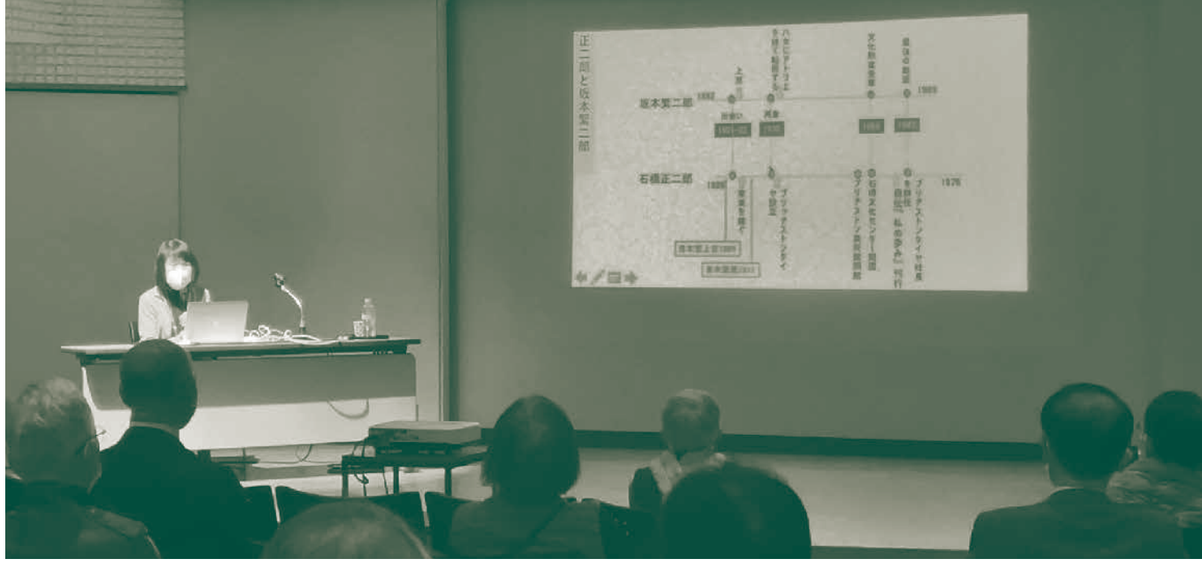
令和4年9月9日

千栄禅寺にて開催

寺町にある千栄禅寺にて、令和4年度の石橋正二郎名誉市民（以下正二郎と記す）墓前祭を、新型コロナウイルス感染防止対策を講じ、9月9日に執り行いました。

会場の千栄禅寺には60人の市民が集まり、入口には生前の写真も飾られ、正二郎を偲びました。

会場では、「あなたは、常に人々の幸せを念じ、事業を通じて、社会に尽くすことをモットーとされました。特に、愛郷心深く、ふるさと久留米に対して、限りない愛情を注がれました」という、正二郎の偉業と遺徳を称えた名誉市民顕彰会本村康人会長の追悼文が配布されました。



講演と展覧会鑑賞

令和4年12月16日

講演：石橋文化会館小ホール

展覧会鑑賞：

久留米市美術館・石橋正二郎記念館

「石橋正二郎と坂本繁二郎　青木繁」と題して、久留米市美術館の森山秀子副館長による講演を行いました。

講演後は、久留米市美術館で開催中の「生誕140年　ふたつの旅　青木繁×坂本繁二郎」の鑑賞と、石橋正二郎記念館を見学しました。

次代を担う子どもたちへ

リーフレット配布

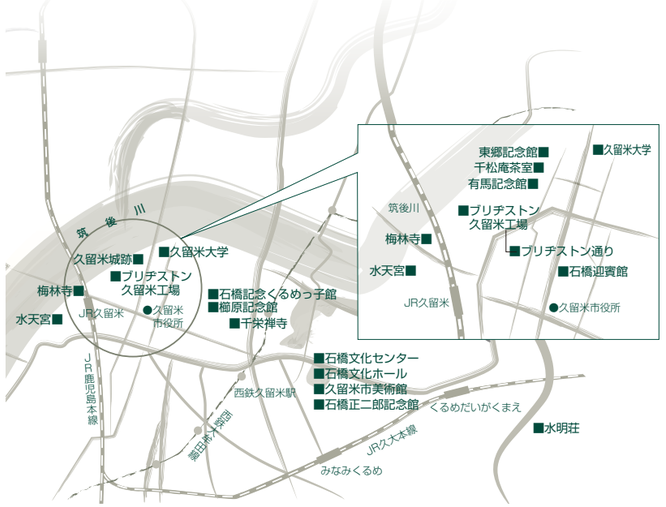
令和4年度では、久留米市内の市立小学校5年生全員（約3,500人）に、石橋正二郎名誉市民顕彰会発行の子ども向けリーフレット「石橋正二郎の生涯」を配布しました。

リーフレット
「石橋正二郎の生涯」

ゆかりの地

■ブリヂストン久留米工場

1934年（昭和9年）久留米工場を建設、
本格的にタイヤの生産を開始しました。



■ブリヂストン通り

1955年（昭和30年）市に寄付。季節ごとに色づくケヤキのある道は市民に親しまれています。また通りには記念碑があります。

■久留米大学

1928年（昭和3年）九州医学専門学校（現·久留米大学医学部）の土地や建物を寄付。設計にも参加しました。大学内には石橋正二郎の銅像があります。

■久留米城跡

1960年（昭和35年）城跡を整備し、有馬記念館を建設、東郷記念館、茶室千松庵などを移築·整備しました。

■梅林寺 梅林寺外苑

開山350年記念に梅園などをつくり1958年（昭和33年）に寄進をしました。

■石橋迎賓館（非公開）

1933年（昭和8年）石橋正二郎の兄、徳次郎の私邸として建てられました。

■石橋記念くるめっ子館

1956年（昭和31年）市長公舎として建設、市に寄付しました。2002年（平成14年）から子どものための施設として様々な活動が行われています。

■櫛原記念館（非公開）

1930年（昭和5年）秩父宮殿下ご夫妻の久留米ご滞在中の宿舎として建設したものです。

■千栄禅寺

石橋正二郎の墓があります。
1959年（昭和34年）に本堂庫裏を寄進。ステンドグラスの窓を使った本堂の内部やその外観には、合理性と独創性を感じることができます。

■石橋文化センター

・石橋文化ホール
・久留米市美術館
・石橋正二郎記念館

石橋文化センターの正面壁面には「世の人々の楽しみと幸福の為に」と刻んであります。

■水明荘（非公開）

自然を愛した石橋正二郎の設計による庭園があります。

人生哲学

石橋正二郎は、自伝として「私の歩み」、「回想記」、「我が人生の回想」を残しました。小島直記著「創業者·石橋正二郎」によれば、正二郎は自伝の口述筆記の際、メモの紙片を手に述べ続け、入念な推敲を繰り返したといいます。その文章はあくまでも簡潔さをめざし、修飾による冗長（じょうちょう）を極力避けました。正二郎が選り抜いた一語一語。その自伝や好んだ言葉から、正二郎の人生哲学を読み取ることができます。

誠実努力（せいじつどりょく）

何事を為すにも真心をもって、物事の本末と緩急を正しく判断し、あくまでも情熱を傾け、忍耐強く努力したのであって、運がよいとか先見の明があるとかいわれるけれども、世の中のために尽すという誠心誠意こそ真理だと思っている。

「私の歩み」より

熟慮断行（じゅくりょだんこう）

私は実業に携わって65年、足袋専業、地下足袋創製、自動車タイヤ国産、合成ゴム開発、LPG開拓、と絶えず新しい事業を手がけてきた。幸い事業は繁栄をみるに至ったが、これには決断がいかに重要かを痛感する。人は必ずその生涯に、進退、左右、得喪（とくそう）を決する二者択一（たくいつ）の岐路に遭遇する。このとき、よく事の本末、緩急（かんきゅう）を勘案（かんあん）し熟慮断行することが大切で、妄動（もうどう）或いは逡巡（しゅんじゅん）して機を逸し、断を誤ってはならぬ。

「石橋正二郎会長随想集」より

千紫萬紅（せんしばんこう）

色とりどりの花が咲き揃い、撩乱（りょうらん）たるありさまは実に平和で明るい。それは巧（たく）まずしてなれる自然の姿であり、神の摂理が感じられる。世の中も、人それぞれが分を尽し処をうるならば理想的といえよう。私はこの言葉が好きで、昨今揮毫（きごう）を求められてこれを筆にすることが多い。

「石橋正二郎会長随想集」より

楽山愛水（らくざんあいすい）

私はこれまで造園を趣味としてきた。しかし庭造りの技法に格別詳しいわけではない。ただ、美しい自然の景観に接すると身心が浄（きよ）められるように感ずるので、限られたなかに樹を植え、石を蒐（あつ）め、土を盛り、水を引いて自然の姿をここにあらわし、これが年と共に趣の生ずるのを楽しみにしている。古語に、知者（ちしゃ）は水を楽しむ、とあるが、石橋文化センター内に建造中の日本庭園もこの程完成し、その池畔の建物に楽水亭と名づけた。これは私の最近の喜びである。

「石橋正二郎会長随想集」より

げんきに学んで正しくすすむ

莊島小学校を卒業した正二郎は、「げんきに学んで正しくすすむ」という言葉を母校に贈りました。正二郎は「私の歩み」の中で、「私は小学校には6歳で入学したが、体が虚弱のため欠席がちで、ロクに運動もできなかった」と述べています。久留米市立莊島小学校は、この言葉を教育目標に設定しています。

若い人びとに

人間は学問することによって天性の才能と知恵がみがかれて、知識も広くなり、ますます良い仕事ができるようになる。人間完成のためにも、職業につくためにも学問は必要である。しかし、学校へ行かぬと学問はできないとか、また学問だけが人の運命を左右するなどと思い過ごしてはならない。世の中は日々が学問である。心掛け次第で学歴もない人が大学卒以上の人となる。大学出だからなどと自惚れるようであれば学問は邪魔ともなろう。こういうことをよくかみわけて、家庭の事情なりあるいはいろいろのことを考えて世の中へスタートすることが大切である。

「回想記」より

BOOKLET 「石橋正二郎の生涯」

石橋正二郎名誉市民顕彰会では、次代を担う子どもたち向けに、石橋正二郎の生涯やゆかりの地をまとめたリーフレットを発行しています。ご希望の方は送付いたしますのでお気軽にお尋ねください。また、顕彰会公式ホームページからもダウンロードできます。

ホームページアドレス　https://www.shojiro-kenshokai.jp

語り継ぐ　尊い理念や功績を深く心に刻む

■ 石橋正二郎のあゆみ

1889（明治 22）年　　2月1日、久留米市本町一丁目に初代石橋徳次郎・マツの次男として出生。
1892（明治 25）年　3歳　徳次郎が仕立物業の「志まや」を始める。
1895（明治 28）年　6歳　久留米市荘島小学校に入学する。
1899（明治 32）年　10歳　久留米高等小学校に入学する。/ 図画の代用教員だった坂本繁二郎に図画を学ぶ。
1902（明治 35）年　13歳　久留米商業学校に入学する。
1906（明治 39）年　17歳　久留米商業学校を卒業。兄とともに家業を継ぐ。
1907（明治 40）年　18歳　家業の仕立物業を足袋専業に改める。
1908（明治 41）年　19歳　久留米市内に小工場を建て、機械生産を始める。
1912（明治 45）年　23歳　九州で初めての自動車を購入し、宣伝に使用、効果をあげる。
1914（大正　3）年　25歳　「志まやたび」を「アサヒ足袋」と改称。20 銭均一の販売を実施。
1918（大正　7）年　29歳　日本足袋（株）（後の日本ゴム（株））を創立して、専務取締役に就任する。洗町の新工場が竣工する。
1923（大正 12）年　34歳　アサヒ地下足袋を創製、販売する。
1928（昭和 3）年　39歳　九州医学専門学校（現・久留米大学）創立にあたり、敷地と校舎を寄付する。
1929（昭和 4）年　40歳　日本足袋（株）の倉庫を改造して、タイヤ試作工場とする。
1930（昭和 5）年　41歳　自動車タイヤの試作を開始する。日本足袋（株）取締役社長に就任する。/ 純国産自動車タイヤ第一号が誕生する。
1931（昭和 6）年　42歳　久留米市にブリッヂストンタイヤ（株）を創立、社長に就任する。
1932（昭和 7）年　43歳　自動車タイヤの輸出を始める。
1934（昭和 9）年　45歳　ブリッヂストンタイヤ（株）久留米工場が竣工する。
1937（昭和 12）年　48歳　ブリッヂストンタイヤ（株）本社を東京に移す。
1938（昭和 13）年　49歳　日本ゴム（株）創立 20 周年記念事業として武徳殿を建設し、久留米市に寄付する。
1940（昭和 15）年　51歳　地下足袋の創製と量産、国産タイヤの貢献を持って緑綬褒章を受ける。
1941（昭和 16）年　52歳　（太平洋戦争が始まり、昭和 20 年に終戦）
1949（昭和 24）年　60歳　経団連常任理事に就任する。/ 天皇陛下久留米工場に行幸される。
1950（昭和 25）年　61歳　グッドイヤー社の招きに応じて渡米、同社と技術提携の交渉を始める。日本ゴム工業会が創立され、会長に就任。
1951（昭和 26）年　62歳　久留米大学理事長、共立女子学園理事に就任。
1952（昭和 27）年　63歳　東京京橋にブリヂストンビル落成、ブリヂストン美術館開館。東京国立近代美術館評議員に就任する。
1953（昭和 28）年　64歳　九州北部大洪水にて久留米工場一部浸水、製造中の自動車タイヤ用チューブを放出して人命救助する。
ブリヂストンタイヤ（株）の本年度売上高は、100 億円を突破し、業界首位に立つ。
1954（昭和 29）年　65歳　久留米大学商学部の敷地と建物の払下げ代金を寄付する。
1955（昭和 30）年　66歳　久留米地区に従業員用アパート群、付属幼稚園、スポーツセンターなどの厚生施設完成。
「ブリヂストン通り」を造成して久留米市に寄付。/ ブリヂストン吹奏楽団久留米が結成される。
1956（昭和 31）年　67歳　ブリヂストンタイヤ（株）創立 25 周年を迎え、久留米工場にて記念式典を挙行。記念事業として石橋文化センター（石橋美術館含む）、市長公舎を建設して久留米市に寄付する。/ 財団法人石橋財団を設立して理事長となる。/ ヴェネツィア・ビエンナーレ展日本館を建設寄付。久留米市より名誉市民の称号を受ける。/ 久留米商業高校に講堂武道場を建設寄付。
1957（昭和 32）年　68歳　この頃から久留米市の小、中学校 21 校にプールを建設寄付。ブリヂストンカンツリー倶楽部を創設する。
1958（昭和 33）年　69歳　梅林寺外苑を造園して寄進する。/ 私学振興の故をもって藍綬褒章を受ける。/ 日本自動車タイヤ協会会長に就任する。
1959（昭和 34）年　70歳　国立西洋美術館評議員、東京国立博物館評議員に就任する。
1960（昭和 35）年　71歳　有馬記念館を建設、久留米市に寄付する。/ フランス政府よりレジオン・ドヌール勲章を贈られる。（日仏文化交流の功績による）
1961（昭和 36）年　72歳　イタリア政府よりメリト勲章を贈られる。（日伊文化交流の功績による）/ 長者番付で日本一となる。
1962（昭和 37）年　73歳　石橋コレクション・パリ展開館式出席を兼ねて欧米に旅行。
1963（昭和 38）年　74歳　ブリヂストンタイヤ（株）社長を辞任、会長に就任。社長に、副社長石橋幹一郎が就任する。
石橋文化センターに文化ホール、文化会館を建設し、久留米市に寄付する。
1964（昭和 39）年　75歳　勲二等瑞宝章を受ける。
1965（昭和 40）年　76歳　財団法人石橋財団より久留米大学附設高校の用地買収資金を寄付する。
1966（昭和 41）年　77歳　石橋文化センターの開園 10 周年記念式典にて、久留米市議会から感謝決議、久留米市から胸像、久留米市民から銀製の感謝楯を贈られる。日伊協会会長に就任する。
1967（昭和 42）年　78歳　久留米大学に医学図書館を建設寄付する。
1969（昭和 44）年　80歳　東京国立近代美術館を竣工、寄贈式を行う。
1971（昭和 46）年　82歳　石橋文化センターの日本庭園寄贈式に出席。最後の帰郷となる。
1973（昭和 48）年　84歳　ブリヂストンタイヤ（株）会長辞任、相談役となる。/ 久留米商業高校に体育館建設費を寄付。
1976（昭和 51）年　87歳　久留米市より米寿を祝って胸像を贈られ、五穀神社境内に建立される。/ 9月11日、東京日比谷病院にて死去。
従三位勲一等瑞宝章を追贈される。/ 久留米総合スポーツセンター県立体育館にて、市民葬が執り行われる。
遺骨は石橋家菩提寺の千栄禅寺、及び東京都多摩霊園に納められる。

■ 入会のごあんない

石橋正二郎名誉市民の偉大な足跡と、尊い理念や功績を深く心に刻み、次世代に語り継いでいきます。

石橋正二郎名誉市民の偉大な足跡と、尊い理念や功績を深く心に刻み、次世代に語り継いでいくため、石橋正二郎名誉市民顕彰会を平成22年8月に組織しました。
石橋正二郎名誉市民の理念を広く伝え、これからのまちづくりをすすめる事業を実施していきます。

石橋正二郎名誉市民顕彰会では、多くの方々のご入会を歓迎いたします。

石橋正二郎名誉市民顕彰会の趣旨や活動に賛同し、同会の組織や活動を支えてくださる会員を募集しています。
活動報告としての会報（年1回）、行事のご案内をお届けします。

■申込方法

申込み用紙に記入の上、事務局へお申込みください。
申込み受付け後、下記の銀行口座に指定の年会費をお振込みいただくか、または直接事務局まで納入してください。
申込み用紙は事務局に準備しておりますので、お手数ですがお問い合わせください。
Webでも下記URLからお申込み可能です。受付完了後、担当者からご連絡させていただきます。
https://www.shojiro-kenshokai.jp/admission/

■申込み先・問合せ先

石橋正二郎名誉市民顕彰会
〒839-0862 福岡県久留米市野中町1015 石橋文化センター内
TEL 0942-33-2271　FAX 0942-39-7837

※頂いた個人情報は当会からのご案内のためのみに使用され、ご本人の許可なく第三者に開示されることはありません。

世の人々の楽しみと幸福の為に

株式会社ブリヂストンの創業者石橋正二郎は、1889 年（明治 22）、久留米市に生まれました。
家業の仕立物屋からスタートしたのち、地下足袋の創製による成功から、ついには自動車タイヤ国産化の成功などによって、日本のゴム工業の発展と技術革新に尽力しました。
名誉市民 石橋正二郎が心から願った言葉があります。
「世の人々の楽しみと幸福の為に」
これは、人を愛し、郷里を愛した正二郎の人生観でした。

■年会費

個人会員	一口	年額	1,000 円
団体･法人会員	一口	年額	10,000 円

■振込先

口座名義：石橋正二郎名誉市民顕彰会

筑邦銀行	本店営業部	普通預金	3012027
福岡銀行	久留米営業部	普通預金	2755875
筑後信用金庫	本店営業部	普通預金	1174358
西日本シティ銀行	東久留米支店	普通預金	1332464

※本人以外の名義で振り込まれる場合にはその旨ご連絡ください。

キリトリ

石橋正二郎名誉市民顕彰会 入会申込書

☐ 個人会員　　☐ 団体・法人会員　　申込日　　年　　月　　日

ご氏名 / 団体･法人名
ふりがな

ご担当者（法人会員の方のみ）
ふりがな

ご住所　〒

お電話

ご職業